

平成27年度 学校評価「C評価改善案」に係る学校関係者評価 その2

		保護者	高校生	教員	総合	学校関係者評価
13	学部間の連携は密に行われ、一貫した教育活動が実践できていますか。	C		C	C	総合 B
分析	<p>幼児から成人まで異年齢集団があることは大きな魅力であることを意識し、幼児、児童の保護者から見たときに「見通し」が持てる学校づくりをめざす。そのための学部間連携の強化がさらに必要であることを認識しなければならない。センターとしての機能も果たし、内外教育支援の充実とともに他機関との連携も深めている中で、本校が県下のセンター校として高い専門性を有していることを積極的にPRしなければならない。保護者には安心・安全を示す努力、教員は自信をもって教育活動に取り組める環境づくりが課題として見える。</p> <p>・各学部のケース会議等に学部長が出席し、さらに情報共有を図る。 ・進学先の学部、幼児児童生徒の情報を詳しく伝える。また、各学部長間の連絡を密にし、緊急の事柄については、職朝等で全体に連絡し漏れがないようにする。</p>					<p>(記述) 今の取り組みが結果を生むことを願っています。</p>
14	将来に向けて、進路を考えるための情報提供ができていますか。	C		C	C	総合 B
分析	<p>教員の評価Cは率直に進路指導のむすかしさを認識しての結果と分析する。保護者のC評価は、子どもの成長において将来の「見通し」が持てる学校であってほしいという思いの表れと判断する。本校が県下のセンター校として高い専門性を有していることを積極的に保護者にPRできるように努める。保護者には安心・安全を示す努力、教員は自信をもって教育活動に取り組める環境づくりが課題として見える。</p> <p>・「進路だより」の充実、進路コーナーの改善、「進路の手引き」の進路HR等での積極的な活用を行う。 ・今年度実施した進路保護者説明会を継続し、多くの保護者が参加するPTA総会でも進路の情報提供を行う。 ・進路講演会などを通じて卒業生から学ぶ機会を充実させ、近盲研・全日盲研・他校からの情報の提供に努める。</p>					<p>(記述) 多くの教員が進路指導に携わることで職員の見識の向上が図れるのでは。</p>
15	進路希望実現に向けて、効果的な指導が行われていますか。	C	C	C	C	総合 B
分析	<p>保護者、生徒、教員すべてが評価Cであることをふまえ、最優先に考えなければならない課題である。教員の評価Cは率直に進路指導のむすかしさを認識しての結果と分析する。保護者のC評価は、子どもの成長において将来の「見通し」が持てる、確かな力を身につけさせてほしいという願いの表れ。生徒一人一人の実態を把握をもとに多様な進路選択の中でのマッチングさせていく教育力の向上を目指さなければならない。教員は、社会が求める力の認識を深め、子どもたちに適性など応じた職業自立に向けた適切な指導が必要である。職安、訓練校など他機関との連携も重要である。保護者への情報提供、知ってもらう場の構築も必要である。保護者には安心・安全を示す努力、教員は自信をもって教育活動に取り組める環境づくりが課題として見える。</p> <p>・三者懇談で1年次から進路について情報交換・助言を行い、必要に応じて進路指導部が積極的に参加する。 ・HR・総合的な学習の時間などの年間計画に進路指導やキャリア教育の内容を多く入れていく。 ・新たな進路先の情報入手・開拓に努める。</p>				<p>(記述) 社会状況も大いに影響してくるので大変だと思います。また、結果に結びつきにくい面があるかもしれませんが、地道にお願いしたい。</p>	
16	わかりやすい人権教育が行われていますか。	C	B	B	C	総合 B
分析	<p>生徒、教員の評価はB「できている」とある。しかし、保護者がCとあるので、本校の教育の「見える」化が重要である。取り組みを保護者へ情報発信する。現在もお知らせ、たより、通信を発行し、ホームページも活用しているが、さらによりよいものにしていく姿勢のPR。わかってもらおうための努力を惜しまない教員の姿勢。生徒たちが自分のことばで保護者に伝えられる表現力や情報発信力の向上をめざす。</p> <p>・生徒・保護者にも考えてもらえるような教材を用意し、事後には保護者にもアンケートを取り答えてもらえるようにする。 ・朝の会や、終わりの会などの学級活動、また各授業において人権教育に関連した内容を取り入れていく。 ・懇談会等で、保護者に活動の様子を伝える。 ・生徒指導部からのお知らせとして、不定期に「希望の花」に人権教育について学習内容や人権に関する内容を掲載する。</p>					<p>(記述) 継続が大切だと思います。</p>
17	わかりやすい防災教育が行われていますか。	B	C	B	C	総合 B
分析	<p>保護者、教員の評価はB「できている」とあるが、生徒がCとあるので、生徒へわかるように伝えていく工夫が必要である。「調べ学習」などを含めての事前、事後指導について見直す必要もある。</p> <p>・舞子高校との「防災に関する共同学習」や各学期の防災訓練に保護者も参加してもらい共に防災意識を高めていく。 ・避難訓練の前後に防災についての事前学習、事後学習を行う。特に、事後学習では今回の避難訓練で学んだことを発表させ、まとめるなど、生徒への意識づけを行う。 ・防災献立給食を実施し防災意識を高め、保護者へ向けても試食会などで備蓄米の試食などを行い理解を深める。また、防災学習を重要な取組として意識されるように学校新聞やブログなどで発信する。</p>					<p>(記述) 今の取り組みを続けていくこと。自助、共助の意識付けをしてほしいです。</p>
28	幼児児童生徒の課題に応じて、福祉・医療・労働等の関係機関と連携がとれていますか。	C		B	C	総合 B
分析	<p>他機関との連携は重要ではあるが、保護者の評価がCで、教員がBとずれがある以上、保護者への伝え方などに改善が必要であることを意識したい。幼児児童生徒の実態を踏まえて適切な関係機関との連携ができてきているかの視点を心がけなければならない。学校としてのチーム支援の在り方も考えなければならない。</p> <p>・自立支援協議会(垂水・明石)や就労支援会議に積極的に参加するとともに、必要に応じて福祉・労働機関を訪問する。 ・幼児児童生徒の課題について校内で情報共有することが出発点である。</p>					<p>(記述) 自立支援協議会を利用ください。保護者のニーズを取り入れ保護者と職場のコミュニケーションもしっかりとって子どもの将来を考えていける学校になってもらいたい。PTAも協力をしたい。</p>